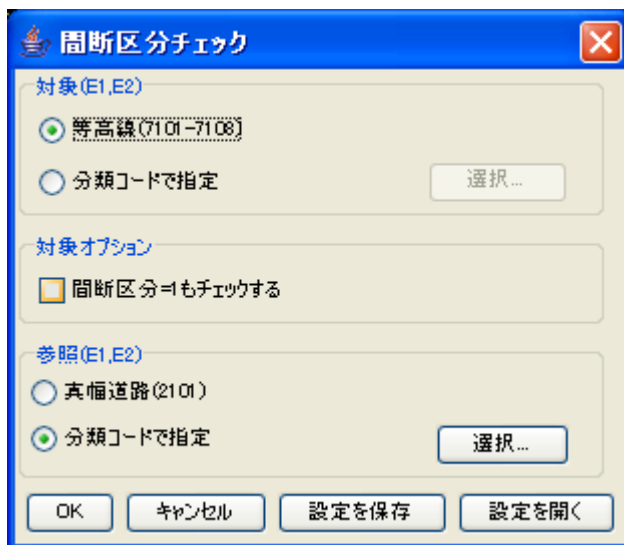
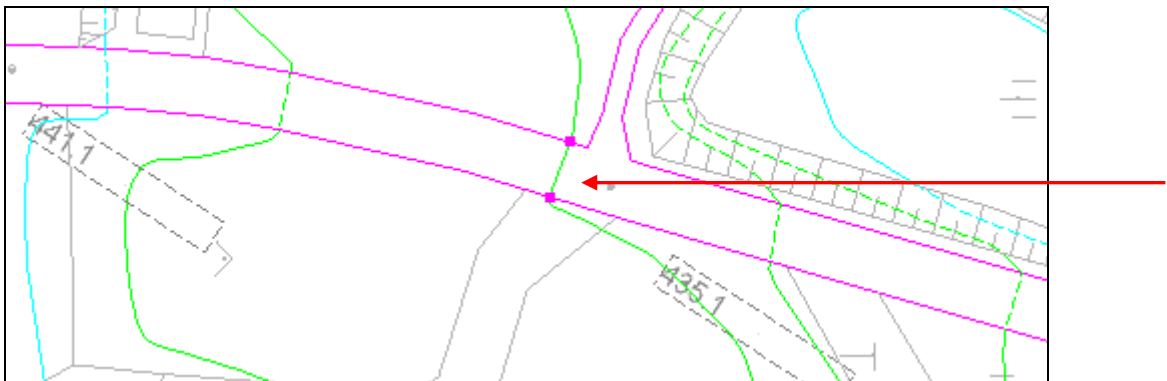


1. 間断区分チェック

新メニュー「チェック」の「間断区分チェック」を追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

開いている DM データの間断区分についてチェックします。主に等高線について、振幅道路の内側などで間断区分=1 に設定されていない箇所をリストアップします。



対象(E1,E2)

等高線等、間断区分=1 が設定される地物を指定します。

間断区分=1 もチェックする

デフォルトの OFF では、対象の等高線等は間断区分が 0 の要素をチェックします。

ON の場合、間断区分=1 の等高線もチェックしますが、振幅道路と人工斜面などが接しているところで、間断区分=1 の等高線の要素が分かれている仕様では有効です。

参照(E1,E2)

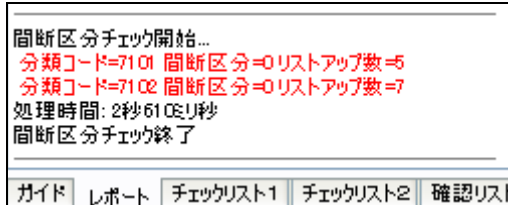
等高線が間断されなければならない地物（真幅道路や河川等）を分類コードで指定します。

次のような処理を行っています。

- ① 間断区分=0の等高線をプログラム内部で仮に接続します。これをポリラインとし、各ポリラインについて以下のチェックを行います。
- ② ポリラインと、対象の真幅道路などの交差を調べます。交差がなければOK。
- ③ ポリラインと真幅道路等との交差が、ポリラインの端点の場合はOK、交差が真幅道路を突き抜ける場合、本来、交差点で間断されなければならないとしてリストアップします。

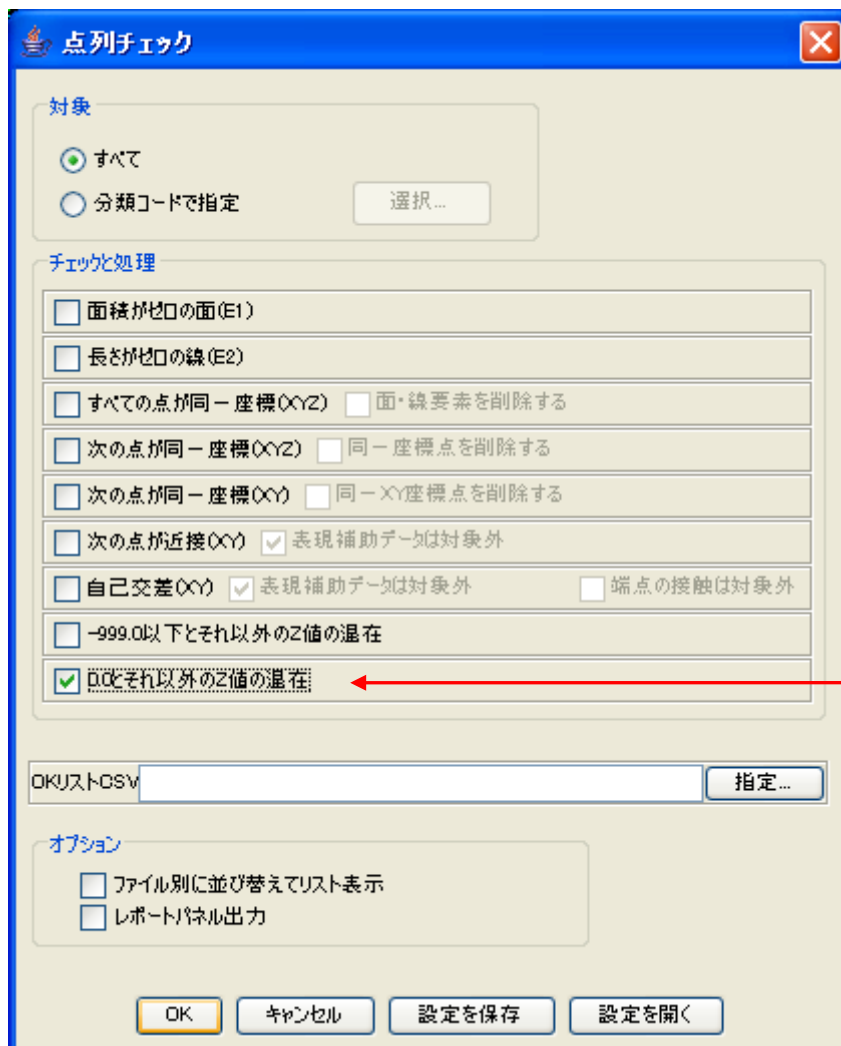
間断区分=1の等高線については、各等高線を、上記のポリラインとして（仮に接続しないで）チェックします。

交点をチェックリストにリストアップし、レポートパネルに交点数を表示します。



2. 点列チェック

メニュー「チェック」の「点列チェック」に「0.0 とそれ以外のZ値の混在」を追加しました。



0.0 とそれ以外のZ値の混在

3次元の面(E1)と線(E2)について、Z値が0.0と、それ以外の値が混在するケースをリストアップします。Z値が全て

0.0、あるいはZ値が全て0.0以外の場合は対象外です。

